

重信房子
足立正生

赤木志郎
魚本公博
小西隆裕
若林盛亮
森順子

足立鐘平
榎原均
大越輝雄
佐藤秋雄
新開純也
高原浩之
田中正治
成島忠夫
西浦隆男
三浦俊一
物江克男
八木健彦

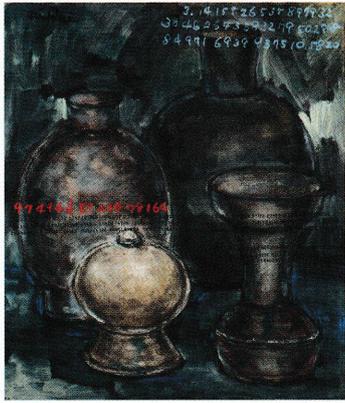
〈寄稿〉
太田昌国
酒井隆史

世界的な格差と貧困、分断が進みゆく今日。
半世紀前の日本の闘争の時代を、懐古や追想でなく史実として振り返り、
記録にとどめ、未来へ向けて伝えたいとの思いで作った本です。
一九六九年から半世紀の時を経て、二〇一九年十二月、刊行。

追想に

あらず

三浦俊一
編者



1969年からの
メッセージ

つなぐ
意志を
超えて
時代を

半世紀前の「闘争の時代」、
その前線にいた者たちが、
未来へ向けて今こそ伝えたい
史実、魂の記録。
——前へ、前へ！

講談社エディトリアル

講談社エディトリアルより2019年12月20日発売
四六判 640ページ 1,980円(本体1,800円)

- ◆出版発起人 三浦俊一(代表) 榎原均 新開純也
高原浩之 物江克男 八木健彦
- ◆編集 小川智子

追想にあらず

~1969年からのメッセージ

◆ご購入の方法

- ・全国の大型書店で販売(店頭がない場合はご注文ください)
- ・amazon、Yahoo!ブックで通販
- ・個人的に購入をご希望の場合はメールまたは電話でお問い合わせください。
miura_bund@yahoo.co.jp 090-9236-9148(三浦) [送料不要、税込1冊2,000円をご入金下さい]

◆下欄にご記入の上、郵送でご注文も承ります。

お名前	電話番号
ご住所	
メールアドレス	購入冊数 冊
〈送付先〉 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-7-7-805 三浦俊一	

ここには、おそらく多くの同時代の若者が共有していたであろう怒りや希望、問題意識、そして挫折と苦悩がある。わたしたちが後から戯画化してしまつて、了解ずみのような気になつている出来事の中に、ひとつの時代を徹底して生き抜こうとした無数の人生がある。このような真摯に生きようとしたひとりの人間が、時代状況のなかで、ときに決して賢明とはいえない選択をしたこと、それはいまを生きるわたしたちと、決して無縁ではない。

——酒井隆史「『追想にあらず』によせて」

『追想にあらず』1969年からのメッセージ

◆寄稿
酒井隆史 「『追想にあらず』によせて」

◆ハイジャックから半世紀を経て

小西隆裕 「医学から革命へ」
若林盛亮 「ライク・ア・ローリング・ストーン」
赤木志郎 「赤軍前史」
魚本公博 「ブントは私の居場所だった」
森順子 「手記」
三浦俊一 「拉致問題と〈よど号〉」

◆国際的な連帯と解放のために
重信房子 「国際主義に目覚めて」
足立正生 「昨日、今日、そして明日も続ける」

◆大学キャンパスから街頭へ
三浦俊一 「全共闘から赤軍へ」
大越輝雄 「今はむしろ背後の鳥を撃て！」
足立鐘平 「六九年大学入学、十九歳で大菩薩へ」

◆武装闘争の敗北に学ぶ
高原浩之 「世紀を超えてブントと赤軍派を考える」
八木健彦 「先進国武闘とその敗北の必然性」
物江克男 「党、風土、リアリズム」

◆遺稿にあらず／先人たちのメッセージ
西浦隆男 「見果てぬ夢／森恒夫について改めて思うこと」
成島忠男 「激動の六〇年代とマル戦派」

◆武装闘争から陣地戦へ
榎原均 「建軍の時代」
佐藤秋雄 「ブントから武装闘争へ」
新開純也 「関西ブント―赤軍派」
榎原均 「政治運動と社会運動を横断する新しい大きな物語を紡ぎだそう」

◆寄稿
太田昌国 「日本の左翼はなぜ影響力を失ったのか」

ご支援のお願い

本書は有志による自費出版です。ご支援(カンパ)を頂ければ幸いです。

◆お問い合わせ 090-9236-9148(三浦俊一)

◆支援金の送り先 京都中央信用金庫 カミカツラ 上桂支店(店番号118) 普通口座0194210(モノエカツオ)